

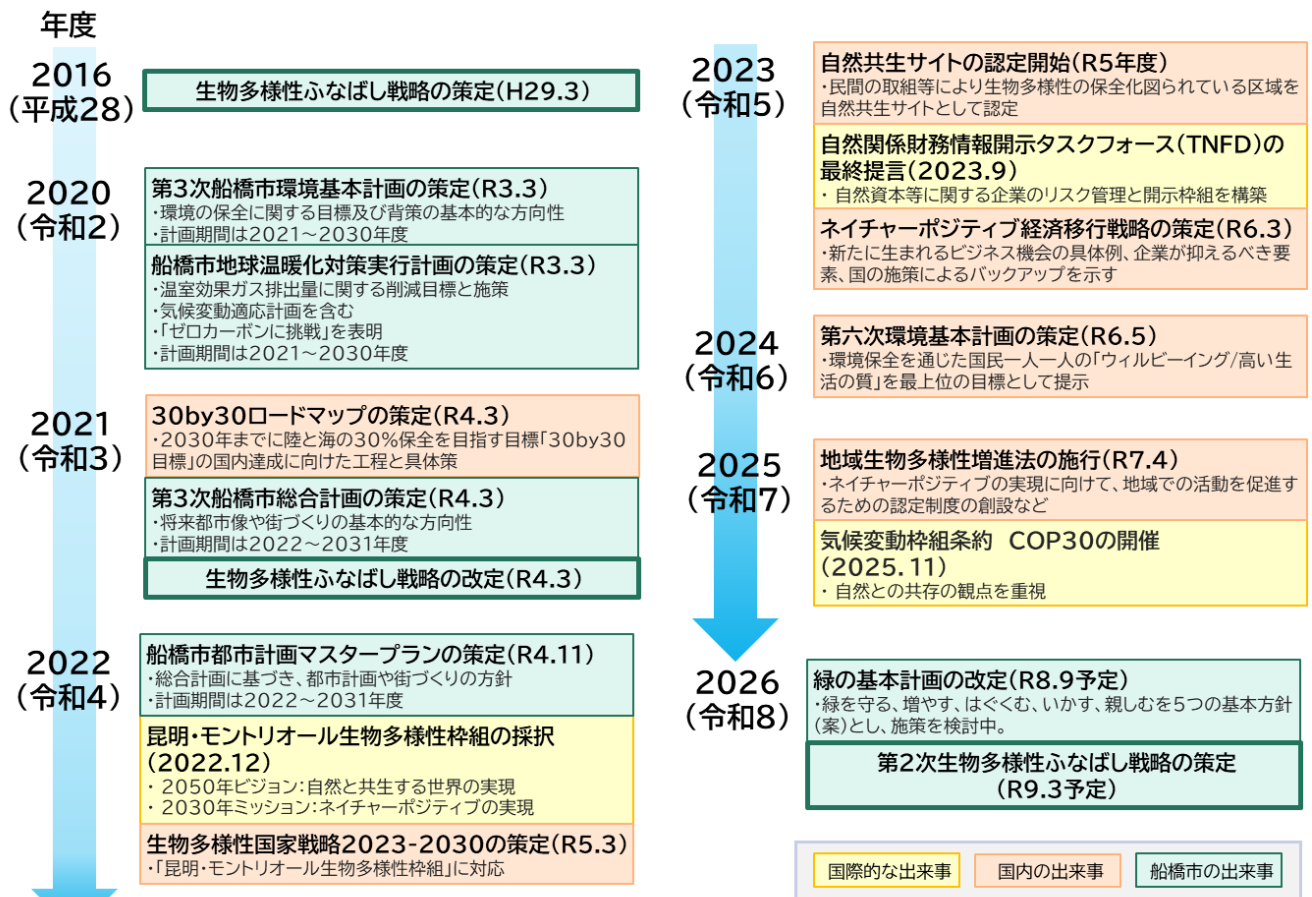
第2次生物多様性ふなばし戦略の策定方針(案)

1. 第2次生物多様性ふなばし戦略策定の背景

生物多様性を取り巻く環境は、国内外関わらず目まぐるしく変化しています。

最近の動向としては、2022（令和4）年12月に採択された「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」を踏まえ、2023（令和5）年3月に「生物多様性国家戦略2023-2030」が閣議決定され、2030（令和12）年のネイチャーポジティブ（自然再興）の実現が目標として掲げられました。

現行の生物多様性ふなばし戦略の対象期間が2026（令和8）年度までであること、国内外及び船橋市の生物多様性を取り巻く現状や課題等に対応するには施策の見直しが必要であることから、2027（令和9）年度からを対象期間とした第2次生物多様性ふなばし戦略（以下、第2次戦略という。）を新たに策定します。



2. 「生物多様性ふなばし戦略<改定版>」の概要

船橋市では2016（平成28）年度に、市における生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画として、生物多様ふなばし戦略を策定しました。その後、生物多様性の取り巻く環境の変化を受け、生物多様性ふなばし戦略を推進するための施策を見直し、2021（令和3）年度に改定しました。

(1) 計画期間

- 長期目標年度 2050（令和32）年度
- 対象期間 2022（令和4）年度～2026（令和8）年度

(2) 対象地域

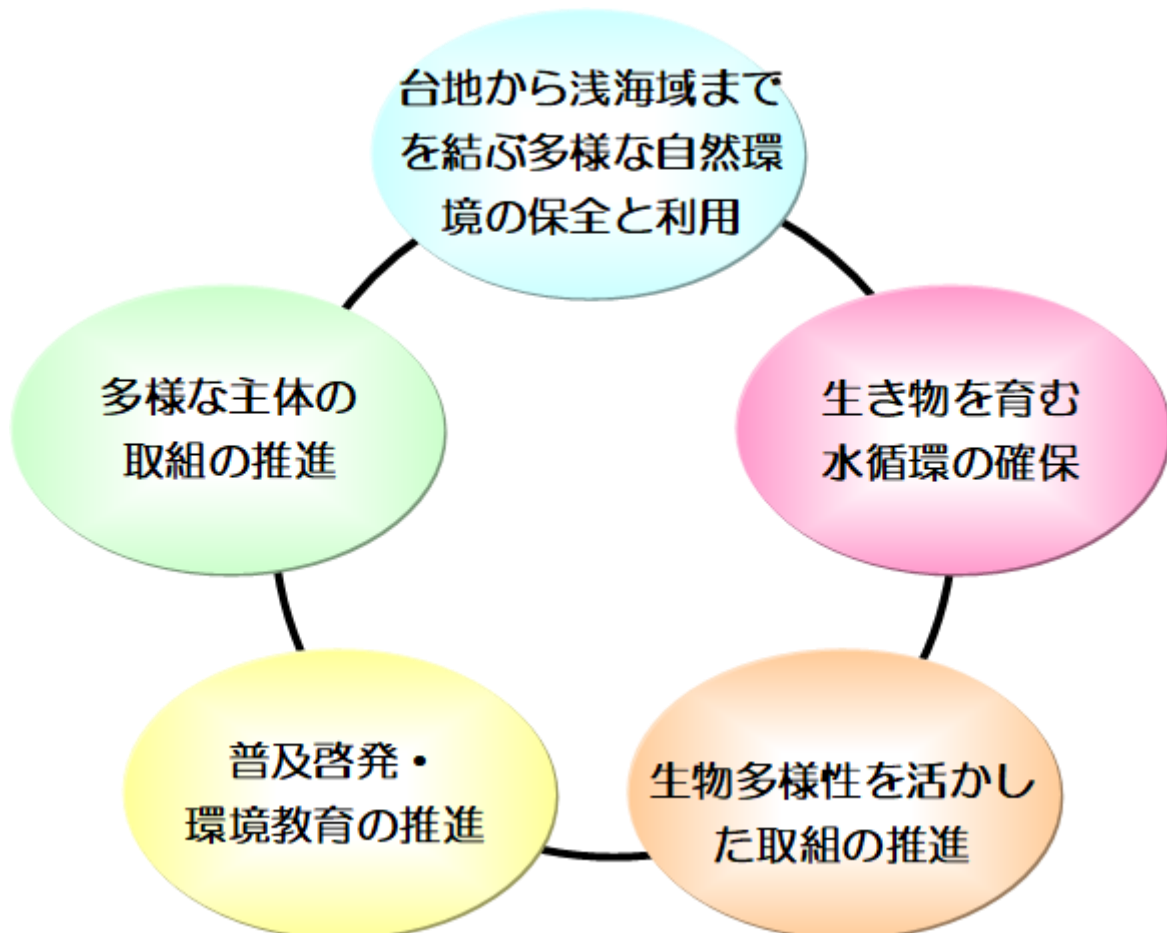
船橋市全域

(3) 基本方針と目標

① めざす将来像

台地から海へ いのち 水・緑・生命と共に暮らす都市 まち

② 5つの基本方針



(4) リーディングプロジェクト

生物多様性ふなばし戦略<改訂版>では、計画対象の5年間において市民・事業者・市が特に重点的に進めていく取組として、3つのリーディングプロジェクトを設定しました。

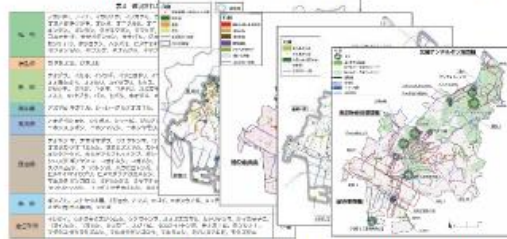
リーディングプロジェクト①

「船橋の自然の情報を集めよう！見える化しよう！」プロジェクト

船橋市の生物多様性の状況を把握し、基礎資料として活用できるよう、市民、事業者、研究機関などと連携した自然環境調査、指標種のモニタリング調査を実施します。調査した情報を蓄積し、マップなどのわかりやすく活用しやすいかたちで整理します。



市民参加の指標種モニタリング調査



自然環境情報の蓄積・見える化と活用



リーディングプロジェクト②

「生物多様性の大切さを学ぼう！」プロジェクト

ふなばし三番瀬環境学習館等を活用した生物多様性の学習を推進します。また、農業・漁業体験の推進、事業所における学習の推進、学校給食での食育などを通じて、生物多様性の大切さと、生物多様性の保全や持続的な利用の取組につなげていきます。



体験・学習イベント開催



農産物情報の積極的発信



地元食材を使った学校給食



リーディングプロジェクト③

「生物多様性へ配慮するための仕組みづくり」プロジェクト

ふなばしエコカレッジを通して生物多様性に関する取組の後継者を育成し、持続的な活動を推進します。市民や市民団体、事業者など多様な主体が連携しながらそれぞれの生物多様性の取組を進めていけるよう「ふなばし市民力発見サイト」の活用を進めます。



ふなばし市民力発見サイトの活用



生物多様性情報室での事業者の取組情報の発信



3. 「生物多様性ふなばし戦略<改定版>」の進捗・達成状況等

(1) 令和6年度年次報告書の概要

生物多様性ふなばし戦略<改定版>においては、着実な実施を図るため、毎年度の状態指標の状況や取組状況から進捗評価を実施し、年次報告書にまとめています。評価については、以下の2つの視点から評価しています。

◆ 生物多様性に関する状態の評価

施策の成果だけでなく、様々な要因によって変動する「状態指標」をもとに評価しています。評価は、S～Eの6段階評価としています。

◆ 取組の進捗状況

取組の担当課に対して自己評価による状況調査を実施し、評価点3点～0点で評価しています。

① 全体の総合評価

生物多様性に関する状態の評価が、C評価「目標年度における目標達成に概ね順調な状況だが、一部改善の余地がある。」、取組の進捗状況が、「1.85（おおよそ予定通りの実施状況だが、一部遅れがみられる）」となっています。

基本方針	生物多様性に関する状態の評価	取組の進捗状況
① 台地から浅海域までを結ぶ多様な自然環境の保全と利用	C	1.92
② 生き物を育む水循環の確保	C	1.90
③ 生物多様性を活かした取組の推進	B	1.73
④ 普及啓発・環境教育の推進	C	1.83
⑤ 多様な主体の取組の推進	C	1.88
総合評価	C	1.85

② リーディングプロジェクトの総合評価

生物多様性に関する状態の評価が、D評価「目標年度における目標達成に遅れが見られる状況」、取組の進捗状況が、「1.99（おおよそ予定通りの実施状況）」となっています。

リーディングプロジェクト	生物多様性に関する状態の評価	取組の進捗状況
① 「船橋の自然の情報を集めよう！見える化しよう！」	D	2.20
② 「生物多様性の大切さを学ぼう！」	C	2.18
③ 「生物多様性へ配慮するための仕組みづくり」	D	1.60
総合評価	D	1.99

(2) 生物多様性に係る主な事業実績

◆ リーディングプロジェクト①

・ 2023（令和5）年度

「生きもの探しハンドブック」を発行し、市民参加型モニタリングの本格実施開始。

・ 2024（令和6）～2025（令和7）年度

市民調査を含む、自然環境調査を実施。

・ 2026（令和8）年度

スマートフォンアプリを利用した

市民参加型生きものモニタリングを実施予定。



◆ リーディングプロジェクト②

・ 2023（令和5）年度

中学生・高校生・大学院生・市民で組織した
企画委員会にて意見をまとめ、

「ふなばし生物多様性ハンドブック」を発行。

・ 2022（令和4）年度～現在

ふなばし三番瀬環境学習館を運営。利用者数増加。



◆ リーディングプロジェクト③

・ 2022（令和4）年度～現在

生物多様性に関する取組のリーダー育成等を目的に、
ふなばしエコカレッジを開講。

現在までに114名が修了。



◆ その他

・ 2024（令和6）年度～現在

アライグマ・ハクビシンといった外来種の生活被害防止等を目的に防除事業を実施。

(3) 今後の方向性

リーディングプロジェクト①では生物多様性に関する情報を収集し、リーディングプロジェクト②では自然環境保全意識の醸成に努めました。そして、リーディングプロジェクト③では、それらを生物多様性の保全等に活かすための仕組みづくりに努めてきました。

今後は、これらを土台とし、実際のフィールドにおける生物多様性の保全活動につながる具体的な取組を行うことを見据え、第2次戦略の策定を行っていきます。

4. 自然環境調査の結果

第2次戦略の策定に係る基礎資料とするために、令和6年度から7年度にかけて自然環境調査を実施しました。その調査結果をもとに、船橋市の生物多様性を取り巻く現状や課題等について、船橋市自然環境調査検討委員会において、いろいろな立場の委員に専門的な見地や市民目線から御審議いただきました。

(1) 調査方法

市内20地域で調査を実施しました。今回の調査では、専門調査員による専門調査に加え、市民及び市民団体による市民調査も実施しました。

詳細は、資料4-3の1～5ページにまとめています。

(2) 調査結果

① 確認種数の変化

調査地域数が異なるため、確認種数全体の単純な比較は難しいのですが、専門調査地域数が前回より少ないにも関わらず、外来種の確認数の増加が見受けられました。このことから、市域への新たな外来種の侵入・分布の拡大がうかがえます。

表4-1 確認種数の変化

項目	前々回(参考)	前回 ^{注1,2} (16 調査地域)	今回 ^{注1,2} (10 専門調査地域)
植物	1,040 種	142 科 885 種 (外: 291 種)	142 科 835 種 (外: 296 種)
哺乳類	5 目 8 科 11 種	5 目 8 科 11 種 (外: 2 種)	5 目 9 科 12 種 (外: 4 種)
鳥類	12 目 29 科 86 種	14 目 33 科 80 種 (外: 0 種)	15 目 33 科 66 種 (外: 0 種)
両生類	1 目 4 科 6 種	1 目 4 科 6 種 (外: 1 種)	1 目 5 科 7 種 (外: 2 種)
爬虫類	2 目 6 科 1 種	2 目 8 科 13 種 (外: 1 種)	2 目 7 科 11 種 (外: 1 種)
昆虫類	13 目 151 科 673 種	15 目 177 科 857 種 (外: 1 種)	16 目 194 科 886 種 (外: 1 種)
魚類	4 目 5 科 11 種	8 目 12 科 29 種 (外: 10 種)	6 目 10 科 27 種 (外: 10 種)
底生動物	15 目 23 科 48 種	26 目 73 科 150 種 (外: 3 種)	25 目 74 科 151 種 (外: 4 種)
確認種数	1,886 種	2,031 種	1,995 種
外来種	—	309 種	318 種

注1: 専門調査のみによる種数

注2: 前回調査及び今回調査における () 内の数は外来種の確認数

② 市域の生物多様性の状況(資料 4-3 10ページ～)

市域全体の生物多様性の状況について、土地利用の変化(資料 4-3 6～8ページ)及び専門調査地域・市民調査地域における指標種の確認状況等をもとに表 4-2 のとおり評価しました。評価は、回復傾向・劣化傾向を判断に関する信頼性も加え、表 4-3 のとおり 5 段階評価としています。

表 4-2 市域全体の生物多様性の状況

環境区分等	生物多様性の状況
全体	

環境区分等	生物多様性の状況	環境区分等	生物多様性の状況	環境区分等	生物多様性の状況
二次林		谷津田		生態系ネットワーク	
草地		河川		温暖化	
道端・畑		海岸(干潟)		外来種	

表 4-3 生物多様性の状況評価に関する凡例

		凡例				
		十分回復が伺えた	回復傾向が伺えるが、その程度は不十分	大きな変化なし	劣化傾向が伺えるが、その程度は限定的	顕著な劣化が伺えた
信頼性	高					
	中					
	低					

③ 現状と課題

船橋市の生物多様性に係る現状と課題について、生物多様性の4つの危機をもとに整理しました。

1) 宅地開発等による生息地の減少・分断

【現状】

- 宅地開発等により、生物の生息・生育地の減少・分断が徐々に進んでいる状態
- 水田・谷津田等の湿地環境の減少が顕著

【課題】

- 水田や谷津田等の湿地環境の継続的な維持保全
- 生物の移動の中継地となる市街地における緑地の保全

2) 里地里山などの管理不足等による生息地の減少・分断、生息環境の質の低下

【現状】

- 水田や畑地の耕作放棄に伴う放棄耕作地雑草群落の増加
- 除草等の適正管理がされないことによる草木繁茂や外来植物の侵入

【課題】

- 農地を維持する取組と並行して、耕作放棄地の生物多様性の保全を含む自然の多面的機能の発揮を見据えた継続的な取組

3) 侵略的外来種等による生態系の攪乱

【現状】

- 特定外来生物を含む（国外・国内）外来生物種の増加及び分布域の拡大

【課題】

- 効果的な外来種の防除における重点的な対策種の選定（被害の大きさ等）
- 重要種の生息・生育状況を踏まえた重点的な対策場所の選定

4) 気候変動(温暖化)による生態系(生物相)の影響

【現状】

- 温暖化の指標種とした種の分布域の拡大

【課題】

- 温暖化による生物間の競合等の生態系への影響について、自然環境モニタリング等を通じた継続的な把握

5. 第2次戦略の策定方針(案)

上記の内容及び船橋市自然環境調査検討委員会から市へ提出された提言書（資料4-4）をもとに、第2次戦略の策定方針（案）についてまとめました。

自然環境調査の結果から、船橋市域における生物多様性は劣化の傾向にあり、市域における自然環境の回復に向けた取組みが必要です。

(1) 計画期間

2027（令和9）年度から2036（令和18）年度の10年間

(2) 対象地域

船橋市全域

(3) 策定の基本方針

① 短期目標の設定

目指す将来像を見据えた、今後10年間の短期目標を設定します。

② 地域特性を考慮したエリアの分類

地域特性を考慮して複数エリアに分類し、それぞれのエリアにおける将来イメージを立案します。

③ 今後10年間で重点的に保全する場所の選定

自然環境調査の結果をもとに、今後10年間で重点的に保全していく場所を選定します。（資料4-3 18ページ）

④ 施策体系の見直し

短期目標を達成するための施策を検討し、施策体系を見直します。

⑤ リーディングプロジェクトの設定(継続)

現在のリーディングプロジェクトに、以下の内容を盛り込むことを検討します。

✓ 生物多様性の保全上重要な場所の保全の実施

- ネイチャーポジティブの推進
- 30 by 30の推進
- グリーンインフラの活用
- 生態系ネットワークの形成
- 一人一人の行動変容

✓ 多様な主体との連携によるプロジェクトの推進

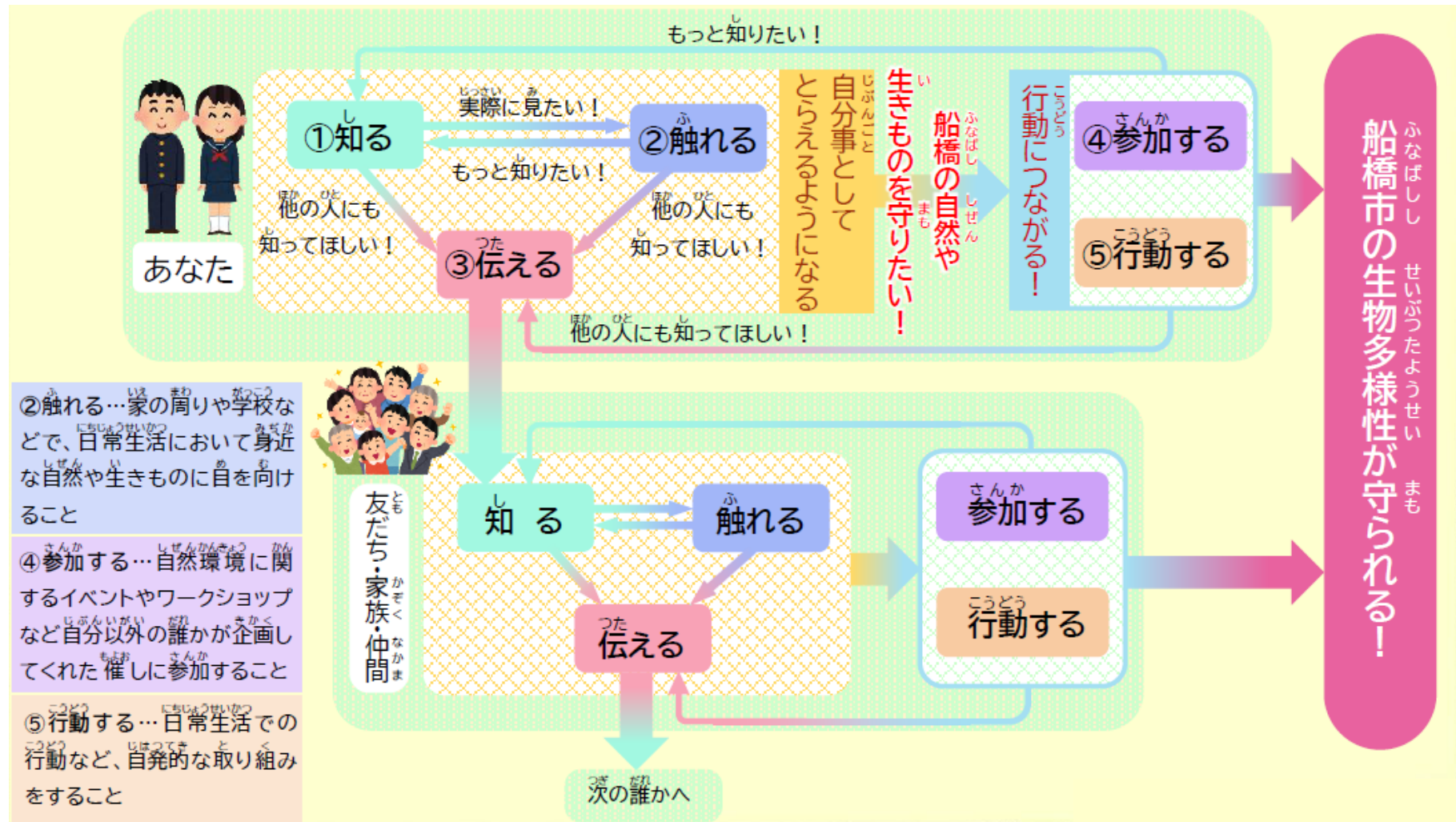
- ネイチャーポジティブ経済の実現
- 一人一人の行動変容

⑥ 柔軟な計画管理

柔軟な計画管理を目指し、年度ごとの行動計画を策定します。

(参考) 一人一人の行動変容

■ 船橋の生物多様性を守るための取組モデル図



ふなばし生物多様性ハンドブックより